

令和7年11月14日

石巻市議会議長 遠藤宏昭 殿

会派名 無会派  
代表者名 阿部正春

## 調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- 1 調査者氏名 阿部正春
- 2 調査期間 令和7年11月4日から  
令和7年11月6日まで 3日間
- 3 調査地 (1) 熊本県水俣市  
及び調査内容 ・環境モデル都市の取組について  
(2) 山口県萩市  
・萩まちじゅう博物館構想について

#### 4 調査目的

##### (1) 熊本県水俣市

水俣市は、水俣病の歴史を背景に、市民参加型の資源循環、環境教育、地域再生などを一体的に進める先進自治体である。本市においても、廃棄物処理、資源循環、地域の環境学習、再生可能エネルギーの普及など共通課題を抱えており、水俣市の政策形成の過程と実践から学び、今後の政策検討に活かすことを目的とする。

##### (2) 山口県萩市

萩市は、まさにまちじゅうが屋根のない博物館のようであり、これらの歴史・文化遺産、自然を保存・活用したまちづくり、観光地づくりを、「萩まちじゅう博物館構想」と称して構想実現に向け取り組んでいる。この「萩まちじゅう博物館構想」への高い評価や水の都・萩の景観を川から眺める「萩八景遊覧船」の就航、「はぎ温泉」の開湯、「おもてなし」の推進などにより観光客も近年増加傾向にある。

本市の交流人口の拡大を図るために、萩市の取組を学び、今後の事業の参考とする。

## 5 調査概要

### (1) 熊本県水俣市

#### ①水俣市の概要—自然環境に恵まれた小都市

面積：163.29km<sup>2</sup>

人口：約22,000人

水俣市は、熊本県の南端、鹿児島県との県境に位置している。水俣川が源流から河口まで市域を貫いて東西に流れている。森林が面積の75%を占め、うち人工林が95%である。周囲を山々に囲まれ、西には面積は少ないものの、海・山・川の生態系をもつ豊かな自然環境に恵まれた地域である。

#### ②水俣の歴史

1 塩の専売制開始(明治43年)により製塩業は廃止となり塩田跡地の土地が存在した。石灰石などが豊富に産出するなど豊富な水資源もあったことと、近場に水力発電所などが有り十分な労働力を得ることができたことから、昭和2年、朝鮮窒素肥料株式会社の設立、世界最大規模の化学コンビナート、興南工場を設立する。

終戦後、海外資産などを接収され、全財産の約8割を喪失。さらに、GHQの財閥解体により、後の旭化成株式会社や積水化学工業株式会社が誕生する。水俣工場は、爆撃を受けたが、直ちに復旧され、終戦2か月後には肥料生産を開始する。昭和30年頃はチッソ水俣工場とその労働者が納める固定資産税、市民税などの合計が市税収入の50%を超え、昭和35年には15歳以上の産業人口19,819人うち4,757人(約24%)がチッソ及び下請会社の社員であった。

#### 2 水俣病の発生

化学工場の排水に含まれていたメチル水銀が水俣湾の魚介類に蓄積し、それを食べた人々の間で健康被害として発生した。メチル水銀は魚介類の体内で高濃度に濃縮され、その魚介類を日常的に食べた地域住民の神経系に障害を引き起こすものであった。環境の破壊、生命・健康被害、水俣病が伝染病、奇病とされていたことからの偏見・差別が起こり、地域のつながりが崩壊していった。

#### 3 水俣湾の再生

公害防止事業として約485億円の費用と13年もの歳月をかけ埋立てを行い、同時に仕切り網内の汚染魚を捕獲し、ドラム缶3,000本に入れ埋立地に埋められている。環境によるまちの再生とコミュニティの再生を進め、環境で破壊されたまちを負の遺産から価値の転換、環境でまちを再生「水俣病」をプラスの資産に替えていく事業が行われてきた。

#### 4 環境によるまちの再生の取組

1) 平成4年、環境モデル都市づくり宣言。

- \*水俣病のような公害を二度と起こさない。
  - \*環境を大切にしまちづくり。
  - \*環境でまちを再生。
- 2) 平成6年、もやい直し（船と船が結びあうロープの様に）。
    - \*水俣病の発生により分断された地域社会、失われた人と人との絆を再生するもやい直しにより地域コミュニティの再生を図っている。
  - 3) 平成20年、環境モデル都市認定。
    - \*国の環境モデル都市に認定。
    - \*2050年までにCO<sub>2</sub>を50%削減することを目標に設定。
  - 4) 平成21年、ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言
    - \*環境モデル都市の目指すべき姿として宣言。
  - 5) 平成23年、【環境首都】称号獲得。
    - \*市民協働によるごみの高度分別、環境ISO、環境マイスター、エコショップ制度等の市民参加の先進的取組が認められ、日本で唯一「環境首都」の称号を獲得。

## 5 水俣市のごみの分別

水俣市で分別しているごみの種類は23種類、資源となる物を売却し、令和5年度には16,285,157円の売却益、令和6年度は10,278,118円の売却益があり、リサイクル還元金として各地域に還元している。生ごみに至っては平成29年度から生ごみ処理容器の貸出し、水切りをして指定の袋に入れ、袋は自然に帰る素材なので袋共々堆肥化にしている。

## 6 SDGs 未来都市づくり

- 1) 産学官連携による環境まちづくり事業の推進。
- 2) 環境に配慮したまちづくりから地域社会づくりへ。
  - 環境、経済、社会の3側面の総合的取組による「持続可能な地域社会づくり」。
- 3) 水俣市で既に始まっている取組。
  - \*市民協働によるごみ分別・市民主体の地域活動。
  - \*高校：SDGsについての学習、17の目標ごとの取り組みをHP等で公表。
  - \*小・中学校：学校版環境ISOを実践し、ごみ分別や節電等、環境に配慮した取組。
  - \*生活協同組合：SDGsロゴパネル展示
  - \*みなまたエコタウン：湾埋立地にリユース・リサイクル企業を誘致し、循環型社会の構築に取り組む。
  - \*市の施設において、再生エネルギー導入。温室効果ガス削減。
    - 水俣環境アカデミア：SDGsに関するシンポジウムや市民向けの公開講座を実施。

※令和2年7月17日に「SDGs 未来都市」に認定。

## (2) 山口県萩市

### ①萩市の概要

萩市は、山口県の北部に位置し、総面積は698.31km<sup>2</sup>で、県土の11.4%に当たる。北部は日本海に面し、東部は益田市（島根県）、津和野町（島根県）、阿武町、南東部は山口市、西部は長門市、美祢市に接している。

地形は、全体として東部の中国山地から北西部の日本海に向かう傾斜地で、南部市境界付近に標高700mを超える山々が連なっており、低地は少なく、阿武川河口部に形成された三角州にある市街地とその周辺に見られ、丘陵地は、田万川地域から須佐地域にかけての臨海部に比較的なだらかに広がっている程度で、大半を山地が占めている。

日本海の沖合には、大島、相島、櫃島、羽島、肥島、尾島の六つの平らな火山島が浮かび、およそ40km先には見島が有り、そのうち、見島、大島、相島、櫃島は有人島である。

気候は、沿岸部においては対馬海流の影響を受けて比較的温暖であり、中山間部においては盆地特有の気候で、変化に富んだ豊かな自然環境を有している。

### ②歴史

古くは日本書紀にも見られる長門国の五郡の一つ阿武郡に遡り、10世紀前後には長門国阿武郡は周防国とともに後白河院の知行する阿武御領と呼ばれるようになり、東大寺の再建の際には東大寺造営料国として用材の切り出しが行われ、阿武川、大井川流域にはそれにまつわる言い伝えも残されている。

1604年、居城を広島から萩に移した毛利輝元は、三角州に城下町を建設して以来、廃藩置県に至るまでの260年余り、毛利36万石の城下町として発展してきた。幕末には、吉田松陰など明治維新の原動力となった人材を数多く輩出してきた。

明治に入り、萩藩は山口藩となり、徳山藩を統合し、廃藩置県によって山口県・豊浦県・岩国県・清末県が置かれ、その後4県が統合して今の山口県が誕生した。

明治22年の明治の大合併では、阿武郡内に22の町村が誕生し、その後、いくつかの町村統合がなされ、昭和30年には昭和の大合併が行われた。この2つの市町村合併により、現在の萩市の基となった旧萩市・川上村・田万川町・むつみ村・須佐町・旭村・福栄村が編成され、平成17年3月6日には、この1市2町4村が合併し、新萩市となり現在に至っている。平成28年4月8日には本市とも友好都市締結を結んでいる。

### ③産業

萩市の産業別人口は、第一次産業12.3%、第二次産業18.3%、第三次産業69.4%となっている。

※農業は県下屈指の農業振興地域に位置づけられ、ブランド産品としては良質・良食味のコシヒカリを始め、千石台だいこん、山口あぶトマト、たまげなす、萩相島スイカ、大井の玉葱などが生産されている。

さらに、肉用牛の繁殖・肥育経営と言った蓄産業も盛んな地域で、県内最大規模の肉用肥育農場が整備されている。

また、既存法人の連携・規模拡大を促進する中、酒造業、蓄産業との連携による酒造好適米、飼育用米などの生産をはじめ、鳥獣被害防止対策を強力に推進し、農地フル活用による需要のある作目への転換誘導に取り組んでいる。

※林業は適正な森林施業の推進の為林内路整備等の支援を行うと共に、伐期適齢を迎えたスギ、ヒノキなどの豊富な森林資源の流通促進のため、ストックヤードを整備し需要に即応できる体制強化を図ることとしている。

※水産業は萩の水産資源を将来にわたり持続的に保存・活用するため、漁場保全や自然保護を図るとともに、藻場や河川の環境保全等に取り組んでいる。

また、萩の瀬つきあじ、萩のアマダイ、萩の真フグ、須佐男命イカ等、萩の魚ブランド化の推進による付加価値の向上と販路及び消費の拡大を図ることで魚家経営の安定に努め、併せて観光客等を対象とした地魚の消費拡大に取り組んでいる。

※商工業は、豊饒な資源を有する日本海や肥沃で豊かな土壌の恵から生み出される水産・農産加工業、観光資源による観光サービス業などが主要産業となっている。

また、一萩二萩三唐津と呼ばれ、我が国屈指の焼き物である萩焼が有名、活力ある地域産業を再生する為、萩ブランドの構築や販路拡大などによる利益を生み出す仕組みづくりを推進すると共に、雇用の拡大、また、起業、創業や企業誘致の積極的な取組を行っている。

※観光において萩市は、江戸時代の地図がそのまま使えるまちといわれるほど、毛利藩政期に形成された城下町のたたずまいが都市遺産として、今なお現存している町である。

また、吉田松陰をはじめ高杉晋作や木戸孝允など近代日本を切り開いた人々を輩出した明治維新胎動の地である。

さらには、須佐ホルンフェルスや笠山に代表される北長門海岸国定公園指定の美しい海岸線、国指定天然記念物の明神池、国指定名勝の長門峡など、すばらしい自然にも恵まれている。

萩市は、これらの歴史・文化遺産、自然を保存・活用した町づくり、観光地づくりに取り組んでおり、平成27年7月には萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城下町、松下村塾の5遺産を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」が世界遺産に登録され、平成30年9月にはジオパークが日本ジオパークに認定され、また、水の都・萩の景観を川から眺める萩八景遊覧船や、はぎ温泉をはじめとした温泉郷、旬の地産食材を利用した萩の食によるおもてなし、須佐ホルンフェルスや笠山などのジオサイトを活用した学ぶ観光・教育観

光など魅力ある萩市の地域資源を活用し、見る、触れる、楽しむといった滞在型・体験型観光を推進している。

#### ④萩まちじゅう博物館構想とは

##### 1 基本理念と基本方針

基本理念：萩のおたからを活かした協働によるまちづくり・観光地作り

基本方針：

- 1) おたからの再発見・保存・活用・魅力発信
- 2) おたからを通した多様なコミュニティの形成・活動の推進
- 3) おたからを活かした経済活動の推進
- 4) おたからを活かす人材の育成

##### 2 まちじゅう博物館を支えるしくみ ～行政の取り組み～

###### 1) 萩市の景観行政（野外広告物）

平成16年に景観法が制定されたことに伴い、屋外広告物の一部が改正され、景観行政団体である市町村が都道府県に代わり条例を定め、屋外広告物を規制することができる様になり、萩市は、平成17年3月に、中国・四国地方では初めて景観行政団体になり、平成19年6月に景観法に基づく景観条例を制定、10月には景観計画を策定。

平成20年3月に萩市屋外広告物等に関する条例を制定した。

◎歴史的風致維持向上計画の策定。

平成20年11月、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称：歴史まちづくり法）が施行。

◎指定文化財以外の歴史的風致形成建造物の整備。

渡辺嵩蔵旧宅整備事業—周辺の景観と調和した武家屋敷の整備。

観音院観音堂整備事業—人々の信仰の場である観音堂の歴史風致の維持及び向上。

◎中核博物館：萩博物館、萩・明倫学舎の整備。

萩博物館—平成16年11月11日開館。

- ・堀内伝建地区内に建設され、武家屋敷風の外観が特徴。
- ・萩の歴史・自然・文化を学ぶことができる。

萩・明倫舎—平成29年3月4日開館。

- ・旧明倫小学校舎を改修・整備し萩観光の新たな起点に。
- ・観光情報に加え、世界遺産、ジオパーク、幕末に関する情報発信、展示を行っている。

◎地域博物館・交流施設の整備—地域博物館・交流施設でのおたからの実物展示、空間・情報拠点の整備。佐々並市地区のまち歩きの拠点の整備。

◎歴史的建造物の活用—NPOや行政、観光協会、文化団体等が協力して、季節ごと（不定期）にイベント・展示会場として活用。

◎世界遺産保存修理、整備活用—明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業。

### 3 まちじゅう博物館を展開するしくみ ～市民との協働～

◎NPOまちじゅう博物館—平成16年6月設立、会員数：約200名。

- ・まち博を市民レベルで推進。
- ・まち博の中核：萩博物館を管理運営。
- ・萩博物館の学芸活動サポート。

◎まち博の中核博物館：萩博物館を管理運営—受付・館内ガイド・守衛・清掃。

◎萩博物館の学芸活動サポート—古写真の整理・データベース化・民具の手入れ・歴史資料の掘り起こし・生活文化の研究。

◎NPO萩観光ガイド協会—平成19年1月設立、会員：100名。

- ・まち博のおもてなしを推進する団体として設立。
- ・文化財施設や各拠点のガイド、周遊ガイド等。
- ・萩観光セミナー・ボランティアガイド養成講座の開催。
- ・萩城下町に萩観光情報センターを開設。

◎NPO萩明倫学舎—平成28年12月設立、会員数：約100名。

- ・行政と協働で萩・明倫学舎の運営を行う団体として設立。
- ・受付・案内・ショップ、ガイド等。

◎地域団体浜崎しっちゃん会—平成10年設立、会員：80名。

- ・浜崎の町並みガイド。
- ・浜崎伝建おたから博物館の開催。
- ・浜崎まちなみ交流館日山村家住宅、旧山中家住宅、梅屋七兵衛旧宅の管理・運営。

◎地域団体佐々並どうしんてやろう会—平成23年設立、会員：約110名。

- ・佐々並の町並みガイド。
- ・地域情報拠点萩往還おもてなし茶屋の管理・運営。
- ・佐々並豆腐作り体験教室などのイベント開催。

◎文化遺産活用事業—文化庁の補助を受け、3～5か年計画で実施。

◎おたからマップ—萩まち歩きマップ。

◎萩検定—自然・文化・歴史の遺産をクイズ形式で学びながら萩のことをより深く知る。

- ・文化遺産情報を用いた環境学習、生涯学習、人材育成。

◎萩ものしり博士の活躍—研修事業・検定運営事業などの実施。

◎ワンコイントラスト—ワンコイン（100円）のトラスト（信託）を募る。

・集まったお金は、文化財に指定されていないものや民間所有のおたからを対象に、その修復などに利用する。

#### 4 今後の展開

◎萩市文化財保存活用地域計画の策定—9つの萩ものがたり。

◎萩市文化保存活用地域計画の推進体制—萩まちじゅう博物館推進委員会（萩市文化財保存活用地域計画協議会）。

◎萩まちじゅう博覧会—萩全体を屋根のない博物館と見立てる萩まちじゅう博物館を会場に、萩のおたからを、萩を好きな人が、萩を楽しむために、萩のおたからを使ったプログラムを作り、旅でつなぐ催しとなっている。

#### 6 所感及び調査による石巻市への政策提言等について

##### (1) 熊本県水俣市

水俣市では化学工場のメチル水銀が水俣湾を汚染し、世界で例のない公害、住民の健康に大きな被害を及ぼし地域のつながりすら崩壊する様な状況であった。そう言ったどん底の中から環境によるまちの再生、そしてコミュニティの再生に取り組む。過去の重大な事例が新しい再生の為の力となっている。

本市においても環境モデル都市として取り組んで行くならば、こう言ったモチベーションが重要であろう。公害で埋め立てた水俣湾をエコパーク水俣と称してリサイクル企業などを誘致、水俣市は23種類にごみの分別を行っており資源ごみと燃やすごみの分別、資源の売却益をリサイクル還元金として各地域に還元し、崩壊した地域のつながりを取り戻していることから、環境問題のみならず、本市においてもただの押し付けではなく、やれば・・・ができるという考えが必要である。

##### (2) 山口県萩市

萩市の総面積は本市より広いが人口は4万人と少なく、昔から江戸時代の地図がそのまま使えるまちとも言われるほど、城下町のたたずまいが都市遺産として、今なお現存しており、吉田松陰をはじめ高杉晋作や木戸孝允など近代日本を切り開いた人々を輩出した明治維新胎動の地であり、素晴らしい自然にも恵まれている。そして、5遺産を含む明治日本の産業革命遺産が世界遺産に登録されるなど、現在にして萩市そのものがおたからとなっている。そのおたからを通じてコミュニティの形成、活動の推進、経済活動の推進、おたからを活かす人材の育成を基本方針にしている。観光とは、その土地にしかないものを観光と言うのであれば、まさしく萩市は観光の宝庫とも言えるが、本市においても本市にしかないおたから（観光施設となり得る）を改めて見だし、ただ観光と言うだけでなく、そういう発見したおたからを活かし、多様なコミュニティの形成、地域づくり、人材の育成など様々な視点で繋げていくことが大事なことだと思う。

#### 7 調査経費 124,015円

8 添付書類 別添資料のとおり